

2019年度 講義概要（シラバス）

科目名	国際化時代の平和
担当者	竹本真希子（広島平和研究所准教授）、広島平和研究所研究員
履修時期	後期
履修対象	1・2年
概要	授業形態：講義 広島の被爆体験をはじめ、世界が経験した多様な悲惨な体験とその記憶の継承、現在の社会への影響について学ぶことにより、悲惨な体験と記憶の継承が、平和の喪失から平和の創造へと転じる上で果す役割について考える。
到達目標	世界のさまざまな悲惨な体験や人権抑圧などの事例がどのように記憶化され継承されているか、また現在の社会にどのような影響を与えているかを学び、広島の被爆体験を出発点としつつ、世界の多様な事例を踏まえながら国際的な平和を創造するための課題について議論する基礎知識を得る。
受講要件	特になし。
事前・事後学修	日々世界で起こる多様な平和の喪失および平和の創造の事例に関心をもち、自ら調べる。
講義内容	以下の講義を予定している。順序および内容は変更の可能性あり。講義内でアナウンスする。 1. ガイダンス： 国際化時代の平和・・・竹本真希子 2. 貧困緩和と平和・・・大芝亮 3. 民族浄化とジェノサイド・・・吉川元 4. 日本の戦争の非人道性・・・水本和実 5. 国際社会の組織化と国際連合・・・佐藤哲夫 6. 原爆体験とトラウマ・・・直野章子 7. 持続可能な発展目標（SDGs）と平和・・・沖村理史 8. ヒロシマとマニラ—第二次世界大戦の喪失体験と記憶・・・永井均 9. 小型武器軍縮の発展の歴史・・・福井康人 10. 沖縄の「戦後」—基地と自治・・・河上暁弘 11. 北朝鮮の人権抑圧・・・孫賢鎮 12. 中国の戦争記憶・・・徐顕芬 13. 平和とグローバル・コミュニケーション・・・河呉珍 14. 勝利・敗戦の記憶と歴史認識・・・竹本真希子 15. ヨーロッパの平和と統合運動・・・竹本真希子
評価方法	平常点および学期末試験。
教科書等	教科書は使用しない。参考文献：広島市立大学広島平和研究所（編）『平和と安全保障を考える事典』（法律文化社、2016年）。参考文献はさらに講義内で適宜紹介する。
担当者プロフィール	広島平和研究所准教授。ドイツ近現代史、平和思想・平和運動史が専門。
備考	